

愛努文學

アイヌ文学
Ainu Literature

文・圖 | 丹菊逸治 TANGIKU Itsuji
(北海道大學愛努・先住民研究中心准教授)

譯者 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士生)

文責・圖 | 丹菊逸治 TANGIKU Itsuji
(北海道大學 アイヌ・先住民研究センター 准教授)

訳者 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士後期課程)



2013年から始まった「イランカラッペ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。(出典:「イランカラッペ」キャンペーン推進協議会 <http://www.irankarapte.com/>)

2013年迄今産官學合作舉辦的irankarapte活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。(圖片來源:「イランカラッペ」キャンペーン推進協議 <http://www.irankarapte.com/>)

アイヌ文学 といふとき、通常は伝統的なアイヌ口承文学と、書かれた芸術としての近代アイヌ文学とを分けて考えるのが一般的です。もちろん、同じアイヌ民族の文学的営為である以上、そこには連続性があり、全く異なるものとして扱う必要はありません。あくまで形式的に異なるジャンル群として考えるべきだということではあります。口承文芸の形式的な違いに着目した分類は次のようになります。

アイヌ口承文学の諸ジャンル

散文説話

3人称体で語られる物語。人間を主人公とする物語が多く、神々は助力者として登場する。

提到 「愛努文學」，一般通常會分成傳統的愛努口傳文學，與做為書寫藝術的近代愛努文學來思考。當然，既然皆同是愛努民族的文學性作為，並具其連續性，是沒有必要看待成完全相異的東西。也有人認為應思考成僅於形式上有所相異的體裁類群。以下是口傳文藝著眼於形式差異下的分類。

愛努口傳文學的各種體裁

散文説話

以第3人稱講述的故事。故事多以人類為主人翁，諸神則以協助者登場。

神話

1人称体で歌われる物語。神々を主人公とする物語が多い。中には人間の守護神であるオキクルミ神を主人公とする物語もある。

叙事詩

1人称体で歌われる長編物語。ポイヤウンペ、オタストウンクルなどの少年英雄の冒険の物語。1日で終わらないほど長い話もある。

歌謠

あまり意味がない歌詞の短いもの、恋愛物語歌謠など。

伝説

3人称体で語られるさまざまな伝承。

祈詞

神々への祈り。

家系の伝承など

3人称体で語られるさまざまな伝承。

これらは現在では伝承する人が少なくなっています。アイヌ語で伝承されてきたために、アイヌ語の衰退とともに語られなくなりました。最近ではアイヌ語で暗記して語る活動も行われていますが、聞いて理解できる聴衆が非常に少ないという問題があります。一方、日本語で語る活動はあまり盛んではありません。

神謠

以第1人称講述的故事。故事多以眾神為主人翁，其中也有人類守護神Okikurumi神為主人翁為主人翁的故事。

叙事詩

以第1人称吟唱的長篇故事。Poyyayunpe、Otasutunkur等少年英雄的冒險故事。也有些故事的長度是一天之內都無法吟唱完畢。

歌謠

短篇且歌詞較無意義，有戀愛故事歌謠等。

傳説

以第3人称講述的各種傳承故事。

祈禱詞

向眾神的禱告

家系傳承等

以第3人称講述的各種傳承故事。

上述諸類在現代傳承者越來越少。因為是用愛努語傳承下來，故隨愛努語的衰退，講述情況也就逐漸減少。近來有舉辦用愛努語背誦講述的活動，但是問題是能聽懂的聽眾微乎其微。另一方面，以日語講述的活動也不算很興盛。

アイヌ口承文学のうち芸能的傾向が強いいくつかのジャンルはそのまま現在でも継承されています。伝統歌謡、神謡、叙事詩などです。また、いうまでもなく宗教儀礼と関連する祈詞も伝統的な形式と内容を保ったまま継承され、多くの場合現在でもアイヌ語で実践されています。一方、芸能的傾向が弱く、形式的制約の弱い散文説話、家系伝承などは近代文学の母体となっていました。

口承文学の記録

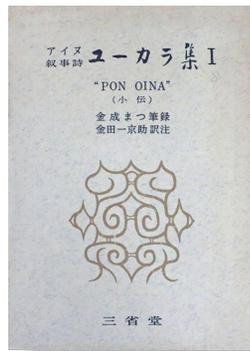
金成マツ（1975-1961）は叙事詩その他の伝承を『ユーカラ集』（全9冊、1959-1975）など膨大な筆録資料として残しました。同じような試みは鍋澤元蔵はじめ何人かの伝承者によって行われています。夭折した知里幸恵（1903-1922）の『アイヌ神謡集』（1923）は有名です。彼らは伝統的な話をあまり近代的な脚色をせずに筆録しました。とはいえ、『アイヌ神謡集』の第一話や、草稿での話の配列の仕方などをみると、彼らがさまざまな思いを込めたことがわかります。



知里幸恵『アイヌ神謡集』。岩波文庫版はもっとも入手しやすいアイヌ口承文学。「赤帯」つまり外国文学扱いである。

知里幸恵《アイヌ神謡集》（愛努神謡集）。岩波文庫版是最容易取得的爱努口傳文學。「紅條」的意思是視為外國文學。

愛努口傳文學之中，表演性傾向較強的幾類體裁至今仍被承繼著。即是傳統歌謠、神謠、敘事詩。另外，不需贅述的是與宗教儀禮關聯的祈禱詞，其傳統形式與內容都被保存承繼，即使現在很多情況也是用愛努語實踐進行。另一方面，表演性傾向較弱，形式上限制較弱的散文說話、家系傳承等則成為近代文學的母胎。



金成まつ『ユーカラ集I』。語り手本人がローマ字で書き残したが、刊本には金田一京助による訳注がつけられている。

金成マツ（KANNARI Matsu）《ユーカラ集》（Yūkara集）。叙述者本人是用羅馬字記錄下來，出版品則由金田一京助加註解與翻譯。

口傳文學的紀錄

金成マツ（KANNARI Matsu）（1975-1961）留下《ユーカラ集》（Yūkara集）（全9冊、1959-1975）等叙事詩與其他傳承的大量筆記資料。鍋澤元蔵為首的幾位傳承者也有進行過類似的嘗試。英年早逝的知里幸恵（1903-1922）的《アイヌ神謡集》（愛努神謡集）（1923）最為廣為人知。他們不太將傳統故事以近代角色安排方式筆記下來。話說如此，我們可從《アイヌ神謡集》（愛努神謡集）的第一首，或是草稿中故事配置方法等等來看，可知道他們各種心思蘊含其中。

山本多助（1904-1993）はたんに伝承を書きとめるのではなく、独自の脚色を加えた作品に仕上げました。彼はまた、アイヌ語による少数部数発行の雑誌『アイヌ・モシリ』（1957-1963）を刊行するなど実験的な試みをしています。国会議員になった萱野茂（1926-2006）は、アイヌ口承文芸の資料収集・紹介を行った在野の研究者でもありました。彼は『ウエペケレ集大成』（1974）、『萱野茂のアイヌ神話集成』（全10冊 1998）など伝統的なアイヌ口承文学を紹介する一方、それらに添えた解説という形で学術性と創造性を発揮しています。

口承文学と近代文学

山辺安之助（1867-1923）が言語学者金田一京助（1882-1971）の協力で遺した『あいぬ物語』（1913）は、彼の樺太での生誕から対雁への強制移住、日露戦争などの回想録です。アイヌ語と日本語の両方で書かれています。個人の回想物語という点ではアイヌ口承文学の伝統に沿ったものですが、金田一の協力で筆録され、いわば近代文学のような形で遺されることになりました。彼が先祖から聞いて語った以外の部分、つまり山辺安之助個人の体験については直接筆録されたものであり、それは口承文学における「口から口へ」というプロセスを経っていません。同じことが川上勇治（1930-2004）による『サルUNKル物語』（1976）についてもいえます。これは日本語で書かれたものです。川上勇治の先祖が沙流川流域に移住した経緯などは口承で伝えられたものを文字化したも

山本多助（1904-1993）不僅只是將傳承寫下來，並加上獨自的角色安排後完成作品。另外他也嘗試試驗性少量出版愛努語族語雜誌《アイヌ・モシリ》（Ainu・Moshir）（1957-1963）。曾任國會議員的萱野茂（1926-2006）也是收集、介紹愛努口傳文藝資料的在野研究員。他除了在《ウエペケレ集大成》（uwepeker集大成）（1974）、《萱野茂のアイヌ神話集成》（萱野茂的愛努神話集成）（全10冊 1998）等著作中介紹傳統的愛努口傳文學外，也以附上解說的的形式，發揮學術性與創造性。

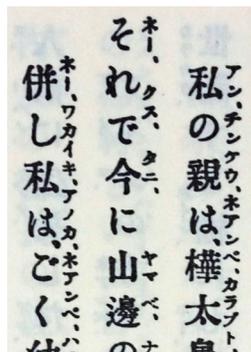
口傳文學與近代文學

山邊安之助（1867-1923）在語言學家金田一京助（1882-1971）的幫助下留下《あいぬ物語》（愛努物語）（1913）一書。該書是他出生在樺太後被強制移居到對雁，以及日俄戰爭等地回憶錄。書寫語言為愛努語與日語兩語。個人的回憶故事這點來說可以是延續著愛努口傳文學的傳統，但由金田一的協助下筆記下來，可以說是以類似近代文學的形式存留下來。他從祖先敘述聽來的部分以外，也就是針對山邊安之助個人經驗直接筆記下來的部分，是沒有經過口傳文學中的「口頭到口頭」的傳遞過程。川上勇治（1930-2004）所著《サルUNKル物語》（Sarunkur物語）（1976）也可以說是同樣的情況。這本書是用日語寫成。是將川上勇治祖先移居到沙流川流域經過等事，這些用口傳方式傳承下來的東西加以文字化，也就是口傳文學的文字化。但是因為有直接寫下川上勇治本身的體驗，所以意義上終究不能算是



山辺安之助『あいの物語』。復刻版が河野本道編『アイヌ史資料集 第六巻』（1980）の分冊として読める。

山辺安之助《あいの物語》（愛努物語）。復刻版則是在河野本道編《愛努史資料集 第六巻》（1980）的分冊可以閱讀到。



山辺安之助『あいの物語』の冒頭部分。金田一京助による日本語と山辺によるアイヌ語（カタカナ）が並べられている。

山辺安之助《あいの物語》（愛努物語）的開頭部分，是金田一京助用日語與山邊用愛努語（片假名）並排而成。



砂沢クラ『私の一代の思い出 クスクップオルシベ』。本人がアイヌ語と日本語で書き残したが、刊本には研究者による日本語訳も添えられている。

砂沢クラ (SUNAZAWA Kura) 《私の一代の思い出 クスクップオルシベ》（我這一生的回憶 Ku sukup oruspe）。本人用愛努語與日本語記錄下來，出版品再加上研究者的日語翻譯。



川上勇治『サルUNKル物語』。すずさわ書店では早くから川上勇治、萱野茂らの著作を出版していた。

川上勇治《サルUNKル物語》（Sarunkur物語）。すずさわ (Suzukiwa) 書店從早期就出版川上勇治、萱野茂等人的著作。

の、つまり口承文学を文字化したものです。しかし、川上勇治自身の体験は直接書かれたものであり、いかなる意味でも「口承」ではありません。すでに近代文学というべきでしょう。とはいえ、それらを書きとめる「動機」は伝統的な価値観の延長上にあります。砂澤クラ（1897-1990）の『私の一代の思い出 クスクップオルシベ』（1983）はそれを如実に表しています。彼女の手稿群は、身の回りに語る相手がいなかったために、アイヌ語で語る代わりにアイヌ語で筆録したものでした。その一部がアイヌ語および日本語で出版されたものです。

アイヌ民族の近代文学

近代と直面したアイヌ民族はまず何よりも社会的・経済的な活動に力を注ぎました。個人

「口傳」。應該可以說是近代文學。雖說如此，將前述內容寫下來的「動機」是立足於在傳統價值觀的延長之上。砂澤クラ（SUNAZAWA Kura）（1897-1990）的著作《私の一代の思い出 クスクップオルシベ》（我這一生的回憶 Ku sukup oruspe）（1983）則是如實地表現。她的多數手稿，因為身邊沒有可以講述的對象，所以是以愛努語講述並採用愛努語紀錄下來。其中一部分是用愛努語與日語出版。

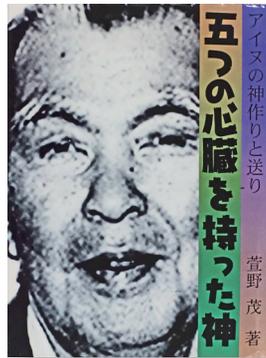
愛努民族的近代文學

直接面對近代的愛努民族，首要的當務之急是必須在社會、經濟活動上投入心力。光憑

での農業・漁業だけではありません。明治時代には事業のためにいくつもの組合が結成されました。そして伝統的な口承文学だけでなく、日本文学の形式で作品を残そうとする人々も現れました。違星北斗は社会運動を志しましたが、一方でいくつもの短歌を残しています。また、宣教師ジョン・バチエラーの養子となったバチエラー八重子（1884-1962）はキリスト教伝道の傍らでやはり短歌を作り歌集『若きウタリに』（1931）を刊行しています。

やがて短歌だけでなく、小説や評論、エッセイなど文学活動の幅は広がりました。アイヌ民族自身による多くの自伝やエッセイが刊行されています。アイヌ口承文学を記録した萱野茂は『俺の二風谷』（1975）などアイヌ社会で育った回想エッセイを執筆した文筆家でもありました。自らの体験やアイヌ社会のあり方、和人社会との軋轢を絡めたエッセイ作品はアイヌ民族の文化活動家、社会活動家によって現在までいくつも書かれています。それらは自伝という伝統と近代文学が融合した形式ともいえます。

もちろん本格的な



萱野茂『五つの心臓を持った神』（2003、小峰書店）。萱野茂は2001年に総合研究大学院大学で博士号（学術）を取得している。本書はその博士論文。

萱野茂《有五个心臟的神》（2003、小峰書店）。萱野茂於2001年在総合研究大学院大學取得博士學位（學術）。本書為其博士論文。

一個人是無法進行農業、漁業。明治時代為了進行產業活動組成了數個工會組織。然後不只是傳統的口傳文學，也出現一些人想以日本文學的形式將作品來下來。違星北斗雖志在社會運動，但另一方面也留下多首短歌作品。是日本文學和歌的一種形式，以五字、七字、五字、七字、七字組合而成。）另外，傳教士John Batchelor的養女Batchelor八重子（1884-1962）則是在基督教傳教活動同時進行短歌創作，並出版了《若きウタリに》（給年輕的Utari）（1931）詩歌集。

於是文學活動的範圍終於不限於短歌，而擴展到小說，評論，隨筆等文類。發行了許多



『久摺（クスリ） 山本多助エカシ生誕百年記念特集号』（2005、釧路アイヌ文化懇話会）。地元である釧路のアイヌ文化活動サークルの会誌の山本多助特集号。表紙は山本多助。

『久摺（クスリ） 山本多助エカシ生誕百年記念特集号』（久摺KUSURI 山本多助Ekashi生誕百年記念特集號）（2005、釧路愛努文化懇話會）。當地釧路の愛努文化活動社團會誌の山本多助特集號。封面為山本多助。

愛努民族本身所創作的自傳或隨筆。曾紀錄愛努口傳文學的萱野茂則以《俺の二風谷》（我的二風谷）（1975）等書，寫下愛努族社會中成長的追憶隨筆，也成為了作家。內容描述親身經驗或是愛努社會樣況、與和人社會摩擦的隨筆作品，至今仍有部分是透過愛努民族的文化活動家、社會活動家持續書寫下來。此部分可以說是以自傳此種形式，將傳統與近代文學融合在一起。

當然也有書寫正

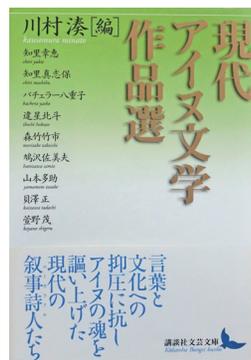
小説や評論も書かれています。鳩澤佐美夫（1935-1971）は若くして病に倒れましたが、いくつもの魅力的な小説と「アイヌであること」に関する鋭い評論を残しています。彼の作品はまぎれもない近代文学ですが、アイヌ口承文学の要素を取り込もうとした形跡もみられます。上西晴治（1922-2009）は『コシャマインの末裔』（1979）などでアイヌ民族の近代化の苦闘、和人（日本からの移民）との軋轢・差別問題を正面から取り上げました。佐々木昌雄は『アヌタリアイヌ われら人間』誌（1973-1976）を中心に文筆活動を行い、日本の主流社会「和人」たちからの視線、アイヌ民族のアイデンティティを巡る問題などについて鋭い分析をしています。彼の詩と評論は『幻視する〈アイヌ〉』（2008）にまとめられています。◆



上西晴治『コシャマインの末裔』（1979、筑摩書房）。あしかけ六年をかけた連作集。表紙は砂澤ビッキによる。

上西晴治《Koshamain 的後代》（1979、筑摩書房）。摺指一算花費六年の連続作品集。封面為砂澤Bikki所做。

式の小説或是評論。鳩澤佐美夫（1935-1971）年輕時病倒，但是仍留下數篇具有魅力的小說與「アイヌであること」（身為愛努族）相關的精闢評論。他的作品毫無疑問是近代文學，但是也可以看到他攝取愛努口傳文學要素的痕跡。上西晴治（1922-2009）的《コシャマインの末裔》（Koshamain的後代）（1979）等書中正面將愛努民族近代化的辛苦奮鬥、和人（日本來的移民）之間的摩擦、歧視問題提出。是15世紀北海道東部的愛努族首領。康正2年（1456）愛努青年因委製的小刀要價不公，與打鐵店的和人發生糾紛遭到殺害。愛努人憤慨群起反抗，由コシャマイン首領帶領大軍，試圖將北海道（當時被和人稱為蝦夷地）內的和人



川村湊編『現代アイヌ文学作品選』（2010、講談社文芸文庫）。重要な作家の作品が収められている。現代アイヌ文学の入門によい。

川村湊編《現代アイヌ文学作品選》（現代愛努文學作品集）（2010、講談社文藝文庫）。収録重要作家の作品。適合做為現代愛努文學入門書。

將以驅離，造成兩邊戰爭。）佐々木昌雄則以《アヌタリアイヌ：われら人間》（Anu tari ainu：我們這些人）刊物（1973-1976）為中心進行文筆活動，針對從日本主體社會「和人」們的視點、愛努民族的自我認同等問題進行了犀利的分析。他的詩與評論則整理在《幻視する〈アイヌ〉》（被幻視的〈愛努族〉）（2008）著作之中。◆

◎小事典

1. Poyyayunpe是愛努語，此字可分為「pon ya un pe」，意思是「小的本土的人」。Poyyayunpe是愛努族口傳文學謠曲（yukar 即敘事詩）中的英雄，雖是人類但具有分身等超能力。
2. Otasutunkur的意思是「Otasut的人」，是敘事詩的英雄稱呼。「Ota」為海濱、「sut」為山麓，「Otasut」的意思，目前各家仍有不同說法。
3. 對於愛努敘事詩的愛努語表記方式，在研究專家有兩派主張。一為金田一京助採用片假名「ユーカラ」（Yūkara）的表記方式，另一派為弟子知里真志保則認為「ユカル」（Yukar）才是正確，因為「ユーカラ」（Yūkara）是庫頁島愛努方言的「吟唱」一詞，並不是指的是敘事詩此字。
4. 「アイヌ・モシリ」（Ainu・Moshir）的意思是「人的國度」，此字相對於「カムイ・モシリ」（kamui・Moshir）「神的國度」一字。「アイヌ・モシリ」（Ainu・Moshir）狹義的意義可指「北海道」這個大地。對愛努族來說北海道就是人（愛努族）的國家。可推測雜誌取名具有民族主義意涵。
5. ウエペケレ（uwepeker）為愛努族的口傳文學，為散文體材的童話類型故事。
6. 對雁位在今日北海道江別市。明治8年（1875年）日本明治政府與俄羅斯政府因為國界問題，以法文簽署「樺太・千島交換條約（樺太指的是「庫頁島」）」，將世居庫頁島的愛努族強制遷至北海道的對雁。
7. サルウングル（sarunkur）為愛努語，サル（sar）是「沙流川」，ウン（un）是「在」，クル（kur）是人，全字意思是「在沙流川的人」。
8. 短歌（たんか / tanka）是日本文學和歌的一種形式，以五字、七字、五字、七字、七字組合而成。
9. John Batchelor（1854-1944）為英國聖公宗的傳教士，同時為愛努民族研究者，又被稱為愛努族之父。
10. ウタリ（utari）為愛努語，是指「親戚、同胞、人民」，現在常被專指為「愛努族的同胞」。
11. 和人（わじん / wajin）是指愛努民族對於大和民族的稱呼。
12. コシャマイン（Koshamain）是15世紀北海道東部的愛努族首領。康正2年（1456）愛努青年因委製的小刀要價不公，與打鐵店的和人發生糾紛遭到殺害。愛努人憤慨群起反抗，由コシャマイン首領帶領大軍，試圖將北海道（當時被和人稱為蝦夷地）內的和人將以驅離，造成兩邊戰爭。

作者簡介 | プロフィール

丹菊逸治（たんぎく いつじ）

東京大学フランス文学科卒業・千葉大学大学院修了・文学博士。

専門は口承文芸論。特にアイヌ語アイヌ文学、ニヴフ語ニヴフ文学。2011年より北海道大学アイヌ・先住民研究センターに准教授として勤務。公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構のアイヌ語教材事業にも協力している。アイヌ語アニメ『オルシペ・スウォップ』（Oruspe Suwop）（2012）の「ルロアイカムイ」（Ruroaykamuy）および『オルシペ・スウォップ2』（2013）の監修。また同財団のアイヌ民話撰集『イソイタク2〜4』（Isoytak）（2014〜2017）編集委員。近著としては「SFあるいは幻想文学としてのアイヌ口承文学」岡和田晃編『北の想像力』（寿郎社 2014）、「干し魚・ニヴフ人の幸せの象徴」永山ゆかり・長崎郁編『シベリア先住民の食卓』（東海大学出版部2016）など（すべて共著）がある。



丹菊逸治 TANGIKU Itsuji

東京大学法蘭西文學科畢業。千葉大學研究部結業。文學博士。

專業為口傳文藝論。特別是愛努語愛努文學、尼夫赫語尼夫赫文學。2011年起任職於北海道大學愛努・先住民研究中心准教授。亦協助公益財団法人愛努文化振興・研究推進機構的愛努語教材事業。負責監修愛努語動畫『オルシペ・スウォップ』（Oruspe Suwop）（2012）的「ルロアイカムイ」（Ruroaykamuy）以及『オルシペ・スウォップ2』（2013）。另外擔任該財團法人的愛努族民話撰集『イソイタク2〜4』（Isoytak）（2014〜2017）的編輯委員。近期著作有〈做為SF或是幻想文學的愛努族口傳文學〉岡和田晃編『北方的想像力』（壽郎社，2014）、〈魚乾・尼夫赫人的幸福象徴〉永山ゆかり・長崎郁編『西伯利亞原住民的餐桌』（東海大學出版部，2016）等（以上皆為共著）。